

2022 年度事業報告

特定非営利活動法人ふおーらいふ

総括

不登校状態にある児童・生徒が、法人の教育理念「自主」「自立」「生活と命」にもとづく体験学習活動などへ、主体的に参加した。新たにフリースクール低学年部（呼称「あかのみあ」）を開設し、低学年の利用者が増えた。また、子どもの福祉のための助成などをうけ、子ども・若者ケアラーや家庭に居づらい子ども・若者のための居場所、トワイライトスペースたるみの新設・運営を行い、教育や福祉関係の機関との連携を強化した。

また、行政や福祉関係の場で設けられる、教育・不登校に関する施策提言の場へ参画し、情報発信に努め、不登校に対する地域社会の理解を深めるよう努めた。その結果、長年「生活といのち」を理念に活動してきた不登校支援に対して、しみん基金・KOBÉより『黒田裕子賞』を拝受するに至った。

また外部からの講演依頼などを受け、職員が登壇したり、神戸市垂水区社会福祉協議会ならびに神戸市（垂水区まちづくり課）と協働し、当フリースクールならびに当法人が培った実践やノウハウなどを地域活動団体へ還元したりすることで、謝金や委託費を得て、事業収入の多様化を図った。

なお、コロナ禍に由来する物価高などによる、財政面への影響については、法人の内部留保を支出することで、フリースクールに在籍する子どもの家庭への負担増が最小限になるように努めた。よって2022年度の決算は、300万円ほどの赤字となった。

(1) 青少年が主体となって総合的に学び、育ちあうフリースクールの運営

1. 自然体験・仕事体験の実施

青少年本部、神戸市青少年育成支援事業補助金による助成を受け、里山工房で自然体験活動を実施し、学校外で学び育つ一般参加の小中学生を含め、10月は14名、11月は13名の子どもが参加した。

ホームスクーラーや、他のフリースクールの方々との交流の場が実現し、学校に行きづらい子どもたちが、指導者のもとで、対話体験や木工作品作りを通して、道具の使い方、自然との共生の意味を知ることができた。



里山工房での自然体験

2. スポーツを通じた交流機会の主催

子どもたちの提案により、11月にフリースクール合同体育祭を主催及び開催した。4校のフリースクールが参加し、リレーや借り物競争、ドッジボールなど様々な競技を行った。

また、事前に子どもたちと話し合いを重ね、工夫を施した。中でも、チームを混合に組み分けたことで他のフリースクールの方々の仲間意識が芽生え、交流へのハードルが下がり、仲を深めることができた。



フリースクール合同体育祭

3. その他の活動について

11月半ばに大阪への卒業旅行を実施し、8名の子どもが参加した。卒業生の意見を積極的に取り入れながら、日時や当日の詳しいスケジュール、グループ行動の計画など、納得が行くまで子どもたちが主体となって話し合った。

また、コロナ禍でも安心して参加できるように、消毒や換気、感染対策などに十分配慮したうえで、実行した。



2月中旬に文化祭「仲間展」を実施し、在籍する子どもを含めて50名が参加・来場した。仲間展では、会場の相談や一般来場者の受け入れ方と催し物について子どもたちと話し合い、工夫した。

また、バンド希望者が集い、ひとつの目標に向かって練習を行った。当日はバンド演奏、缶バッチ作りの企画、フルーツ飴・ベビーカーカステラの提供やスーパーボウルすくいコーナーなどを設け、子どもたちがそれぞれの好きな事を活かし、実践発表できる文化祭になった。



(2) 学習およびコミュニケーションに関する支援事業

1. 放課後クラブについて

毎週土曜 10時30分に開催し、年間でのべ45日、発達障害などの学びづらさがある小学生の学習支援を実施し、各回平均で約4名の利用者の支援を行った。また、夏休みには専門の講師を招いて「夏休み宿題やつつけ隊」（作文、木工、自由研究）を3日間企画・開催し、1日平均3名が参加した。

3. 学習クラブ

地域の子どもを対象に、毎週火曜 16時30分から90分間、算数を主とした学習支援のプログラムを実施・開催した。年間でのべ46回実施し、1名が在籍利用した。なお、利用者が高校へ進学することに伴い、2月をもって事業を終了した。

(3) 生涯学習に関する機会と場の提供

1. フリースクール 20周年記念事業について

コロナ禍のため、出版社の編集段階のまま、今期も書籍刊行に至らず。なお、来期の7月には発刊できる見込み。

(4) 教育や不登校などの相談及び支援・情報の提供活動

1. 教育や不登校などの相談及び支援・情報提供活動について

当法人の多目的室(ルーム B)で、毎月第 3 土曜日に一般公開で不登校親の会を開催した。のべ 12 回、各回平均で約 9 名が参加した。また、隔年開催の「お母さんのための思春期講座」を本年度の6月～10月に開講。延べ29名が参加した。

団体機関紙ゆう通信の発行による情報提供は、年 4 回、1 回あたり約 250 通で、会員や関係機関へ発送した。

フリースクールの情報の発信と、不登校理解のために「入学説明会」と相談会を下記日程で行った。8月24日(参加者:3名)、12月23日(参加者:8名)、3月27日(参加者:4名)。

フリースクールの活動を中心に、当法人の取り組みを下記メディアで発信し、活動の透明性を高められるよう努めた。また、当スクールに在籍しない不登校の子どもやその保護者を含め、学校外で学び育つ子どもの実態や取り組みについても発信した。

(表2) メディアの発信頻度

発信メディア	発信頻度	月平均	フォロワー/登録人数
Twitter	1 回/日	約 64 回	1,192 人
ブログ(CANPAN)	1 回/日	約 19 回	-
Facebook	1 回/日	約 23 回	752 人
Instagram	1 回/日	約 23 回	259 人
YouTube	13 回/年	約 0.9 回	260 人

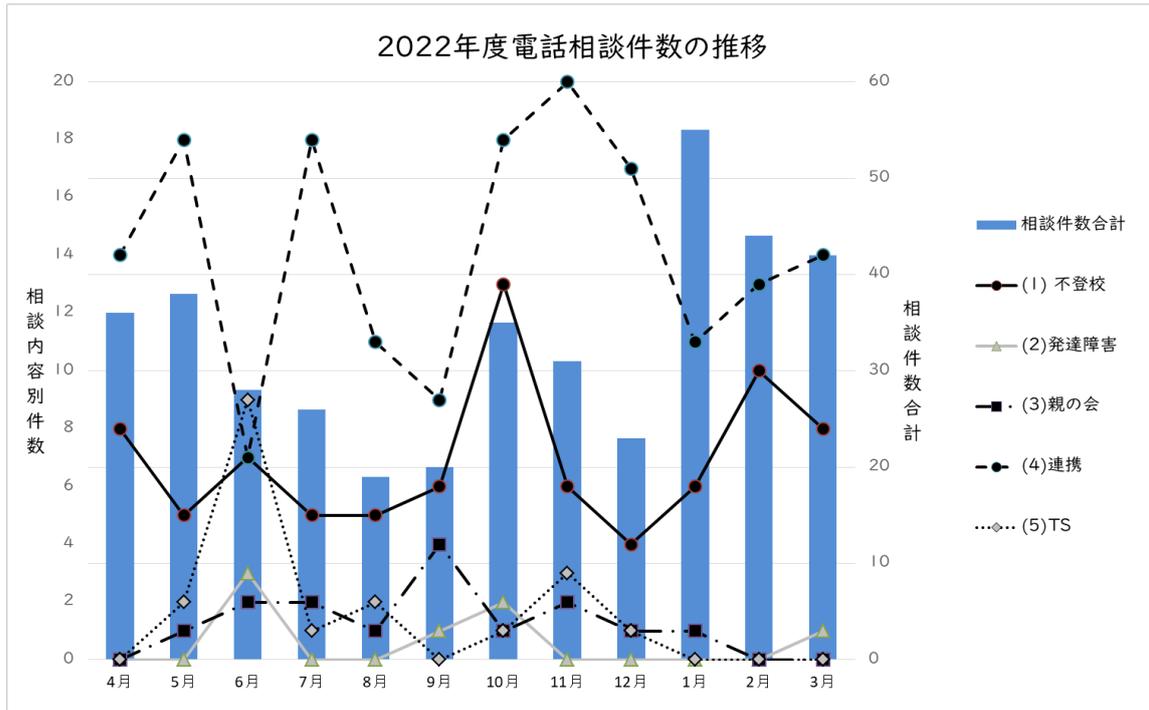
2. インターンの受け入れについて

神戸学院大学・総合リハビリテーション学部から、神戸市社会福祉協議会を通じて、実習生受け入れの依頼があり、当法人のフリースクールで、5 日間の教育・福祉実習の機会を提供した。

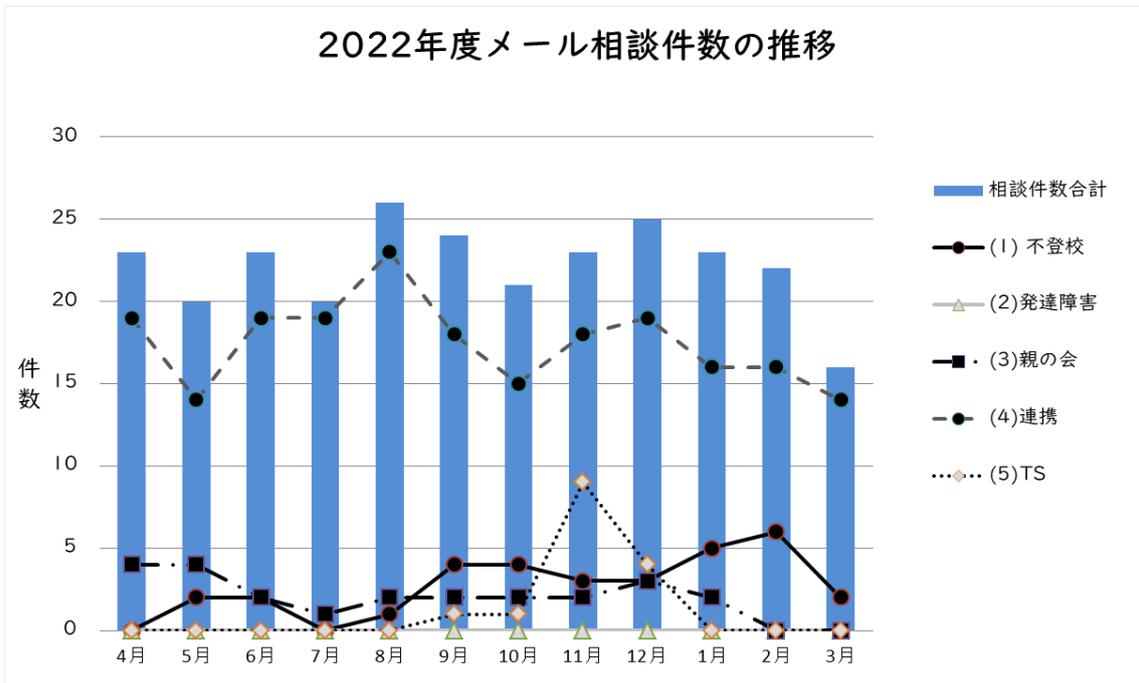
3. 日常的な相談支援について

平日に電話、メールによる相談を受けた。なお、年間の相談件数と内訳は、図 1・2 の通り。また、今年度の、問い合わせ・見学者・体験入学者・入学者数の、のべ人数と、フリースクール在籍者の月平均人数とその内訳、ならびに卒業者週ののべ人数は表 1 の通り。

(図1)



(図2)



(表1) 本年度の相談件数ならびに在籍者数などの状況

問合せ件数	見学者数	体験入学者数	入学者数	在籍者数	卒業者数
のべ94人	のべ43人	のべ14人	のべ13人	※平均10人	のべ9人

(※在籍者数の内訳:小学生0.5人、中学生9.5人、高校生0.0人)

(5) その他第3条の目的を達成するために必要な事業及び前号の事業に付帯する事業

1. 不登校・教育に関する施策への提言

フリースクール全国ネットワークなどが主催する会議体において、不登校支援団体との意見交換や各種提言、企画などに協力した。また「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法」（教育確保法）の成立に伴い引き続き「兵庫県フリースクール連絡協議会」に主体的に参画し、各教育委員会（神戸市／明石市／尼崎市など）との連絡会に参加し、不登校の子どものために、より良い環境設定の要望を示した。

登校拒否・不登校を考える全国ネットワークの夏の全国大会のサテライト会場を主宰、オンラインによる参加者を含め300余人の参加者を得た。

全国親の会調査や保護者に「緊急アンケート」を行い、リーフレットにまとめ、国や行政に不登校に関する情報提供と提言を行った。

1. 当法人の実績を活かし、行政や福祉分野などの多様なセクターと協働・提案する事業

当法人の取り組みを通じて得られた教育・福祉・子ども・青少年などの分野の活動実績を活かし、神戸市垂水区社会福祉協議会の協働コーディネート事業を受託、福祉分野の広報を支援する事業やネットワーク、情報処理のインフラ構築業務などに従事した。

神戸市垂水区役所まちづくり課協働コーディネート事業を受託。神戸市垂水区内で、地域活動に取り組む非営利団体などの相談を受け、垂水魅力アップ活動助成の申請を支援し、同助成受託団体の事業について、助言ならびに伴走支援を行った。

2. 当法人の実績を活かし、講演・講義などを行う事業

神戸市内の社会福祉協議会、立命館大学、地域活動団体から不登校や教育をテーマとした講演・講座の依頼を受け、当法人の職員が登壇した。また、神戸市内の公立中学校、明石清水高等学校からの依頼を受けて、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとしたワークショップを企画・開催した。

※2.3の委託や講演等で得られた委託費、講演料、謝金は、当法人のフリースクールの運営を安定させるための財源として活用した。

別紙 1

フリースクール ForLife 低学年部「あかてみあ」

【事業主旨・内容】

2021 年度中に入学した小学生はわずか 1 名であり、フリースクール ForLife は小学生、特に低学年の潜在的な入学者を逃し続けている状況にあった。このことを踏まえ、今年度より新たにフリースクール ForLife 低学年部「あかてみあ」を開校。小学校低学年（1 年生～4 年生）対象のプログラムを、毎週木曜日 10:00～14:00 に実施している。

【2023 年度事業単体の収支】

活動計算書の注記フリースクール低学年部あかてみあに記載の通り。

【現状と課題】

2022 年 3 月当初に、利用者数（在籍者数）は 6 人を目標としていたが、同年 11 月末時点で目標を達成した。3 月末時点で 8 人が利用している（表①参照）。

利用者数は目標人数を越える一方、あかてみあを開設した 2022 年 4 月から 6 月までの間は、入学者がいなかったため、本年度の事業単体の収支はマイナスとなっている。

表①（あかてみあ在籍者数推移）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	のべ
開設日数	－	3 日	5 日	4 日	3 日	5 日	4 日	3 日	4 日	4 日	3 日	4 日	42 日
利用者数	－	0 人 (0.0 人)	0 人 (0.0 人)	11 人 (2.8 人)	8 人 (2.6 人)	16 人 (3.2 人)	17 人 (4.3 人)	18 人 (6.0 人)	26 人 (6.5 人)	26 人 (6.5 人)	19 人 (6.3 人)	32 人 (8.0 人)	167 人
体験者数	－	3 人	0 人	0 人	1 人	3 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人	1 人	10 人
常勤職員 配置人数	8 人 (2.0 人)	6 人 (2.0 人)	10 人 (2.0 人)	8 人 (2.0 人)	4 人 (1.3 人)	9 人 (1.8 人)	8 人 (2.0 人)	6 人 (2.0 人)	8 人 (2.0 人)	8 人 (2.0 人)	6 人 (2.0 人)	8 人 (2.0 人)	89 人
ボランティア 参加人数	－	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)	5 人 (1.6 人)	12 人 (2.4 人)	8 人 (2 人)	8 人 (2.8 人)	4 人 (1 人)	2 人 (0.5 人)	3 人 (1 人)	5 人 (1.3 人)	47 人

下段、()内の人数は、開設日一日当たりの平均人数

表② フリースクール ForLife 低学年部「あかでみあ」 事業報告

実施内容		在籍者数
03 月末日 ~04 月上旬	在籍する保護者向け説明会(活動日の変更を説明) 「あかでみあ」専用ホームページ編集 ※入学金、活動日を変更	0 名
04 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	0 名
05 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報 「あかでみあ」見学・体験者向け相談会開催 運営会議(現状確認・見直し)	0 名
06 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	3 名
07 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	3 名
08 月	「あかでみあ」見学・体験者向け相談会開催 運営会議(現状確認・見直し)	3 名
09 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	4 名
10 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	6 名
11 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	7 名
12 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報 「あかでみあ」見学・体験者向け相談会開催 運営会議(現状確認・見直し)	7 名
01 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	7 名
02 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報	7 名
03 月	「あかでみあ」開校/見学・体験者受け入れ/広報 「あかでみあ」見学・体験者向け相談会開催 運営会議(現状確認・見直し)	8 名

■ 広報報告

Twitter/ブログ/Facebook (それぞれ実施 | 日あたり | 回)

その他 親の会月例会、各種講座及び講演会開催時に適宜チラシを配布

別紙 2

夜間の居場所「トワイライトスペースたるみ」

【事業内容・内容】

家庭的にしんどい背景を持つ、子ども・若者（11歳～20歳）を対象として毎週月・木曜日 16:00～20:00 にプログラムを実施した。また、居場所の運営・利用者対応に加え、メール・電話・LINE による相談と場合により行政機関との連携を行った。

【2023 年度事業単体の収支】

活動計算書の注記トワイライトスペースたるみに記載の通り。

【現状と課題】

想定していたよりも、関係機関からつながるケースが少なかった。また、相談を受ける時間に制約があり、現状は、トワイライトスペースたるみの開所時間内のみを受付している。

居場所の環境作り(机の配置等)や内容(一緒に食事をする等)を練る必要があり、加えて当事者に届くよう、広報の方法をもう少し練る必要があった。

表①(トワイライト利用者・連携数推移)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
トワイライトスペース 事業日数	6回	8回	11回	9回	9回	8回	7回	11回	8回	8回	8回	8回	101回
相談・利用者 人数	0人	0人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	0人	0人	5人
連携件数	10件	1件	5件	1件	0件	1件	1件	0件	0件	4件	1件	1件	25件

表② トワイライトスペースたるみ 事業報告

実施内容		相談・利用者人数	連携件数
04月	すいせい・高木氏 挨拶と連携依頼 理事・羽下大信氏 挨拶とアドバイザー依頼 垂水区社協・左山氏／久須氏 挨拶と連携依頼 高橋秀典氏 挨拶と連携依頼 理事・高宮静男氏 挨拶とアドバイザー依頼 子ども未来課・西端氏／野里氏 挨拶と連携依頼 神戸市教育委員会・学校指導課 挨拶と連携依頼 垂水区役所保健福祉課・矢野氏 挨拶と連携依頼		10件
05月	居場所開設・相談／広報 FAITH CAFE・川端氏 挨拶とチラシ配架依頼 神戸新聞社・綱嶋氏 取材 リーフレット作成 公式LINE公開 HP作成	0名	1件
06月	居場所開設・相談／広報 神戸ヤングケアラー窓口・上田氏／霜川氏 視察 垂水区社協・左山氏／久須氏 視察 神戸市補助金申請	1名	5件
07月	居場所開設・相談／広報	1名	1件
08月	居場所開設・相談／広報 神戸市社協助成金申請	0名	0件
09月	居場所開設・相談／広報	0名	1件
10月	居場所開設・相談／広報 子ども家庭センター 挨拶と連携依頼	1名	1件
11月	居場所開設・相談／広報 講演会開催／事業現状確認	0名	0件
12月	居場所開設・相談／広報	0名	0件
01月	居場所開設・相談／広報 垂水警察署 挨拶と連携依頼 地域連携研修	2名	4件
02月	居場所開設・相談／広報 CS神戸個別相談／事業会議	0名	1件
03月	居場所開設・相談／広報 CS神戸個別相談／事業会議	0名	1件
	合計	5名	25件

■ 広報報告

Twitter(実施1日あたり1回)

神戸新聞社(1回)／朝日新聞(1回)

2023年(令和5年) 6月 4日

特定非営利活動法人ふぉーらいふ

〒655-0022 兵庫県神戸市垂水区瑞穂通7-2

電話 078-706-6186 (FAX共通)

メール forlife@hi-net.zaq.ne.jp

WEB <http://fsforlife.sakura.ne.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/forlife>

Twitter <https://twitter.com/npoforlife>

Facebook <https://www.facebook.com/npoforlife>

Instagram <https://www.instagram.com/npoforlife>

YouTube <https://www.youtube.com/user/FreeSchoolForLife>

【公式アプリアクセス QR】

